

## 第1章 文章題に立ちむかえる子供を育てる教師の心構え

### ◆考えることのできない3つの原因

- ①「文章題に立ちむかうためのアイテムを持っていない・知らない」
- ②「アイテムを使うという経験を積んでいない」
- ③「教師が設定していない」

アイテムを教えて、  
使う経験を積む場  
を設定すれば、考え  
ることができるよう  
になるはず

### ◆問題文を3文で表す

一文ごとに何が書かれているのかを確認させる

### ◆自分で問題をイメージさせる 絵や図を描く前の教師の一言

- 「どっちの花が多いと思う？」
- 「答えはどれくらいになると思う？」

### ◆とりかかりは4月(できるだけ早い時期)繰り返し取り組む

## 第2章 アイテムを使えるようになれば文章題は必ず解ける

### ◆図の書き方を知っていると、考えようと動き出すことができる

## 第3章 問題文を使えるようになるための3ステップ

### ◆人に説明する場面を設定することで、必要感や目的意識をもって取り組む姿勢が生まれる

#### ◆プロセス①ホップ「アイテムの使い方を子供たちが知る」

使い方を丁寧に指導する

「この問題を○○(アイテム)に変身させるよ」

#### ◆プロセス②ステップ「アイテムを教師が子供たちに使わせる」

使い方が身につくひと工夫を

「使えるアイテムは何だろう」

「○○をどう使うかわかる?」「できるかな?」「じゃあ使ってみよう」

「使い方は、先生は言わないよ。わからなかったら友達に聞いてごらん。先生に聞いてもいいよ」

#### ◆プロセス③ジャンプ「アイテムを子供たちが使ってみる」

自主的に使うようにさせるために

「どうして(本当に)この式(答え)になるの?友達に説明してみよう」

### ◆プロセス中に取り組むべきこと

○黒板上での絵や図の共有…一人の子に描かせるのではなく、途中でストップさせて続きを別の子に描かせることも有効

「ストップ!みんなここまではOK?」

「じゃあ続きを○○さん描いてくれる」

- 「問題文」「絵や図」「式」を線や丸で結びつける
  - 「この絵は、問題のどこにあるの?」「線でつないでくれる?」
  - 「式の中のこの4は絵のどれを表しているの?」「文のどこに書いてあるの?」
- 黒板やノートの絵や図を使い説明させる場をつくる

#### 第4章 学年別!問題に向き合うためのアイテムの使い方

- ◆全学年…1年間でどんな図を使うのか把握する
  - アイテム登場一覧表を作る
  - 絵や図に関するテストをする
- ◆低学年…P58～
- ◆中学年…P72～
- ◆高学年…P80～

#### 第5章 アイテムを使う経験を積むための取組

- ◆みんなが文章題が得意になるプリント(MBT)を作る P92～
  - 単元で文章題を解くための図をあまり活用しない時期(大きな数・図形・グラフなど)に、家庭学習やスキマ時間で取り組ませ、経験を積み重ねさせる
  - ①「問題」を「絵や図」に変換するバージョン
  - ②「式」を「絵や図」へ、さらに「問題」へ変換するバージョン
  - ③「絵や図」を「式」へ、さらに「問題」へ変換するバージョン
- ◆算数絵本を作ろう
- ◆新〇年生のために絵や図の使い方説明書を書こう…相手意識を持たせる
- ◆キャラクターを活用して、わからない〇〇くんに説明しよう
- ◆お休みの子へ算数手紙を書いてあげよう
- ◆テストに持ち込みOKのアイテム(カード)を作る
- ◆自分の考えを書いたノート交換をしよう
- ◆文章題の続きを考えよう
- ◆図の間違いに気付けるようにさる…あえて間違った図を提示する
  - 選択肢を提示する
- ◆読み上げた問題を図に表そう
- ◆他教科でも把握するために図を使う

◎図(アイテム)は、文章題を解決するための手段です。手段が目的になってはいけません。しかし、図がある程度子供たちに定着するまで(ホップ・ステップ)は、図を描くことが目的になってしまうのは仕方ありません。ただし、いつまでも目的にはならないように気をつけておく必要があります。